

◆ 1. 様々な関係者の意識向上と協力強化

■ 1-1. 学校運営委員会の能力向上・活動支援



学校運営委員代表者に対する評価能力向上ワークショップにて、グループワーク結果を発表する参加者。



学校運営委員会の月次ミーティングの様子。11月にはこれまで実施した学校改善活動の評価を行った。



立ち上げから1年たち、計画立案、実施サイクルが1周したため、委員会の再編成（規則見直し、委員交代）を行った。



参加型手法で行われている学校改善計画立案の様子。この計画は重点課題第2期事業の活動内容に反映されている。



ある学校運営委員会の活動の一つとして行われた学校備品の修理に参加する地域住民。材料等の費用は地域住民等から集められた。



学校運営委員会により、各関係者間の協力が活発化し、自治体などとの協力による活動が行われるようになった。写真は自治体の協力による学校周辺の道路、及び、下水施設の整備。

■ 1-2. 教育局職員の意識向上・能力向上



第1回「学校運営委員会を通じた学校改善」ワークショップでは、これまでの実績と今後の計画、また、教育局でどのような枠組みで支援をすべきかについても話し合われた。



現地事業責任者による学校運営委員会モデルの説明。その後の議論にて、教育局内部に学校運営委員会モデルを促進、支援のためのワーキンググループ設立が決定し、第2回ワークショップでは、目的、制度、活動計画などが決定した。

■ 1-3. 親・地域住民の意識向上



第1回学校改善活動報告会の様子。上記写真の会場では150名を超える保護者、教員、地域住民が出席した。



第1回学校改善活動報告会にて、実施してきた活動の実績を参加者に対して発表する学校運営委員。



第2回学校改善活動報告会の様子。活動実績に加え、今後の活動計画、また、それに対する協力等が話し合われた。

◆ 2. 学習環境の整備

■ 2-1. 学校施設修築



教室内部の修築。壁は剥がれ落ち、床は内部のコンクリートが露出し、窓が壊れていたため、この教室は使えなかった。窓枠を修理し、床にはタイルを新たに敷き詰め、さらに、ペンキを塗り直した。



屋根の修築。雨が浸食し雨漏りしていた。防水処置として校舎の上に積んでいた土を取り除き、水が入り込まないように塗装を施し、さらにその上をコンクリートで舗装した。



周辺地域よりも地面が低いこともあり、校舎の周囲に汚水が溜まり、さらに汚水の水面にはゴミが浮いていた。排水等を修理し、さらに土を盛り、庭を造った。



老朽化のため、鉄筋が露出する部分もあり、コンクリートが剥がれ落ちやすくなっていた（写真は、修理のために、壊れかけていたコンクリートを剥がした状態）。鉄筋補修、コンクリート打ち直しを行い、色あせていた壁を全体的にきれいに塗装し直した。（なお、この修築は子どもの安全を確保するための応急処置として実施。）



修築前の学校正門。写真右下部のように、塀の多くの部分が壊れ、内部の煉瓦が崩れ落ちているところもあった。



修築後の学校正門。



修築開始直後の庭。修築開始前はゴミが散乱している殺風景な空間であった。



修築後。周囲には苗木等が植えられ、また、子どもたちが植物を植えることができるスペースも作られている。

■ 2-2. 清掃と維持管理



学校運営委員会が主導した学校の清掃活動の様子。多くの学校にて、清掃活動や 1-1 にあげたような備品修理等、学校運営委員会が主導する学校の維持管理活動が行われるようになってきた。



「掃除するそばで子どもがポイ捨てするような状態だったので、無駄なことをしている気がして仕事をやめることを考えていた。今ではポイ捨てするような子どもは少ないし、掃除をしてくれる子どももいて、良い気分で仕事ができるようになった。」と学校の変化を語る用務員。



現地事業責任者による修築状況と清掃状況のモニタリング。定期的に当団体スタッフによりチェックリストを利用した清掃状況のモニタリングを行っている。



今期は、机等の学校備品や簡単な水道関連の修理等をするための17種のツールキットが供与され、各学校によるメンテナンスに利用されている。



教員向けの子どもに対する衛生教育研修の様子。各学校の代表として参加した教員は研修受講後に、各学校で計238回のセッションを実施し、9,298名の子どもたちが参加した。



研修参加者が子どもたちに対して衛生教育のセッションを実施している様子。写真では手洗いについての講習。

■ 2-3. 学校備品供与



供与された新しい机を使用する子どもたち。以前は机がない子どもがいる学校もあった。合計で560の子ども用の机椅子セット（修理含む）、84枚の黒板などの備品が供与された。



供与された冷水機を利用する子ども。取り付けや水タンク購入、継続して必要になる飲料水の購入は、親などから学校運営委員会への寄付として集められた資金で賄われている。

◆ 3. 学校における「子どもの参加」の促進

■ 3-1. 子ども会を通した子どもの意識向上



第1～3回の子ども会の活動として、理想の学校や良い行いと悪い行い等をテーマとした描画セッションを行った。



子ども会第4～5回の活動は、学校や子どもたちをテーマとした本を利用した読書、朗読セッションを行った。



子ども会第6回の活動として、子どもたちによる学校の問題の洗い出し、優先付けセッションを行った。結果は学校運営委員会に共有された。



子ども会第7～10回の活動として、園芸セッションを行った。配布した植物を、庭に移し替えている様子。



子ども会第11～18（最大20回）回の活動として、演劇セッションを行った。脚本の作成にも子どもたちが参加した。



子どもたちがコンセプト、啓発メッセージの検討、挿絵作成に参加して作られたノート。写真は試作のサンプル品。

■ 3-2. 教員の理解促進（左）、3-3. 学校運営委員の理解促進（右）



教員に対する「子どもの参加」ワークショップにて、グループワークの発表を行う参加者（教員）。



学校運営委員会に対する「子どもの参加」ワークショップの様子。

■ 3-4. 教育局職員の理解促進



レバノンより子どもの参加専門家を招聘し、教育局職員等のトレーナーに対し、子どもの参加ワークショップを実施した。



講師から説明を受ける参加者。重点課題第2期には、これらの参加者が講師となり学校教員への研修を実施する予定。

■ 3-5. 親・地域住民の理解促進



第1回子ども会イベント。親子が一緒に楽しめるゲームに加え、子どもたちが行っている改善活動を子ども自身が発表するなど、大人への啓発活動も行われた。



第2回の子ども会イベント。学校の環境の改善や良い行いを促す内容の演劇を、学校によっては400名近い大人や子どもたちの前で、子どもたちが披露した。